

### 3) 第2回の面接調査の結果

第2回の面接調査結果を以下にまとめる。

表36 地域生活の希望の有無

|            |       |
|------------|-------|
| 地域で暮らしたい   | A、D、E |
| 暮らしたいが、難しい | B     |
| 地域で暮らしたくない | C、F、H |
| 不明         | G     |

#### ① 施設生活について

施設での生活の現状について以下にまとめる。

表37 施設で楽しいこと

|           |   |
|-----------|---|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろある (A)</li> <li>・(楽しい?) ○ (D)</li> <li>・旅行 (E)</li> </ul>                             |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・パソコン (B)</li> <li>・買い物 (B)</li> </ul>   |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・まあまあだな。まあまあ (C)</li> <li>・お風呂とか、食事 (F)</li> <li>・(食事?お風呂?食事とお風呂ならどっち?) お風呂 (H)</li> </ul> |
| 不明        |   |

表38 施設で嫌なこと

|           |  |
|-----------|--|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなワーカーさんがついていないと外に出ちやいけないってなるから外に出られないから、不便ではない (A)</li> <li>・(嫌なことは無い?) △ (D)</li> <li>・1人部屋で生活したい (E)</li> <li>・首が痛い (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろんな人がいるから合わせていくのが大変、入居者も職員も (B)</li> </ul>  |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・体が動かなくなってきた (C)</li> <li>・無いね、寒い (F)</li> <li>・ない (H)</li> </ul>   |
| 不明        |  |

表 3 9 施設で担当していること

|           |  |
|-----------|--|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・無農薬野菜を作っていて、毎日水をあげている (A)</li> <li>・他の利用者の洗濯物運び (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ないね (B)</li> </ul>   |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しい (C)</li> <li>・葉っぱを拾う (F)</li> <li>・ないね (H)</li> </ul>      |
| 不明        |  |

表 4 0 希望、要望

|           |   |
|-----------|---|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ノンステップバスに乗ってどこかに行ってみたいと思った、買ってみたいと思うのはジャンボ宝くじ、ノンステップバスに乗ってジャンボ宝くじを買うこと (A)</li> <li>・(ゲームとかは?) △ (D)</li> <li>・1人部屋で生活したい (E)</li> </ul>            |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川、東京の友達に会いに行きたいが、トイレの問題が難しい、間に合わない時が多い、パット、リハビリパンツをしているが、難しい、職員にも相談して、いろいろと試している、どんな方法を使っても、漏れるときは漏れる (B)</li> <li>・パソコンなどの知識を深めたい (B)</li> </ul> |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリをやりたい (C)</li> <li>・ないね、すぐに寝ちゃう、朝 8 時～夜 9 時寝ている、テレビは見ない (F)</li> <li>・(旅行とか?) 大丈夫です (H)</li> </ul>  |
| 不明        |   |

表 4 1 職員について

|           |   |
|-----------|---|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の担当の部屋の職員が来ないことが悩み、掃除とか部屋の片づけ、自分のできないところができない、担当が女性だから、あまり来てくれない、仲良くない職員はあまりない (A)</li> <li>・(職員と話すのは楽しい?) ○ (D)</li> <li>・優しくしてほしい、介助、乱暴な人がいる (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(職員とうまくやっている?) やっていると思う (B)</li> </ul>  |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(職員と仲良くやっている?) うなづく (C)</li> <li>・仲が良い (F)</li> <li>・(嫌いな職員は?) いない (H)</li> </ul>   |
| 不明        |   |

表 4 2 他の利用者について

|           |  |
|-----------|--|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲の良い人は、向かいの人、Oさんとか結構、いろいろいますよ (A)</li> <li>・(利用者の人と仲良くしている?) ○ (D)</li> <li>・仲の良い人はいる。(いつも話をする?) うん (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(施設で生活している人はうまくやっている?) やっていると思うけど、いろんな人がいるから、(特に仲の良い人は?) 2、3人だね、話をしたりするのが1番の楽しみ (B)</li> </ul>                     |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・(一緒の仲間で、仲の良い人は?) いない、(嫌いな人は?) いない (H)</li> </ul>   |
| 不明        |  |

② 地域生活について

地域での生活への思いについて以下にまとめる。

表 4 3 地域生活でやってみたいこと

|           |  |
|-----------|--|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスで買い物をしたい (A)</li> <li>・スーパーなどのお店がたくさんあるところに住みたい (A)</li> <li>・電動車いすで遠出、買い物に行きたい (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり |  |
| 地域生活希望なし  |  |
| 不明        |  |

表 4 4 地域生活の不安

|           |   |
|-----------|---|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が怖い、NHK の地震速報が怖い、自分、血圧が高くて、たばこは吸わないけど、物が落っこちてきて、下敷きにならないためには、どうすれば良いか心配 (A)</li> <li>・大切なものを買ったり、本当にお金が困らない程度、お金を残すにはどうすれば良いか (A)</li> <li>・お母さんが何て言うかなって、もう 79 歳だし、お姉さんも結婚しているし、どうすればお姉さんは駆けつけてくれるかなって思うんです (A)</li> <li>・(1 人暮らしをしたら難しいことは？ヘルパーとか？) △ (D)</li> <li>・ヘルパー確保 (E)</li> </ul> |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・お金の事、人付き合い、介助者や近所づきあいに自信がない、そういうのをクリアすれば、全然したくないというわけではない (B)</li> </ul>  |
| 地域生活希望なし  |   |
| 不明        |   |

表 4 5 希望する理由、希望しない理由

|           |   |
|-----------|---|
| 地域生活希望あり  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・難しいと思うが、してみたい気持ちはある (A)</li> <li>・ (1人暮らしの気持ちは変わった?) ○、 (やってみみたいと思った?) ○ (D)</li> <li>・ (1人暮らしをしてみたい?) うん、 (難しいと思う?) そうは思わない (E)</li> </ul>   |
| 消極的だが希望あり | <ul style="list-style-type: none"> <li>・大昔はやってみたいと思っていた、僕は理想を追求する人じゃないし、地域で生活する人は、やっぱり、こだわりがある、どうしても、自分の思いがあれば、外に出たいとかなると思うけど、僕はそうじゃない、そういう人じゃないの (B)</li> <li>・お金の事や人付き合いが難しいと思う、介助者や近所づきあいに自信がない、そういうのをクリアすれば、全然したくないというわけではないが、難しいと思う (B)</li> </ul> |
| 地域生活希望なし  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・訳が分からない (C)</li> <li>・危ないから (F)</li> <li>・ (家族が住んでいる) 家が遠いから (F)</li> <li>・ (1人暮らしは?) 難しい、 (地域で生活、興味ある?) 興味ない (H)</li> </ul>  |
| 不明        |   |

### (3)障害児分野

#### 1) 対象者調査

対象者調査では、主に対象者の日常生活の様子を観察し、あわせて障害当事者である調査員が働きかけを行った結果の観察を行った。以下にそれらの結果をまとめる。

#### Aさん

表情やしぐさから意思確認を行うことができたが、発話は単語レベルのものにとどまり、言葉のみでコミュニケーションを取ることは難しい様子であった。当初は警戒感を示していたが、障害当事者である調査員がぬいぐるみを用いて気持ちをなごませたり、施設内をめぐりながら好きなものを探して関係性の構築を図ったところ、絵本のライオンに興味を示す様子が見受けられた。

#### Bさん

言葉を発することはできないものの、表情や目の動きで意思確認をすることができていた。施設内をめぐりながら好きなものを探すと、女性アイドルの写真に興味を示す様子が見受けられた。興味のあることは表情や目の動きでうたえることができ、それらによる感情表現は豊かであった。

Cさん

相手の問いかける内容を理解することができ、頷いたり笑ったりして意思表示をすることができていた。言葉を発することはできないものの、筆談で自分の意思を示すことができていた。新幹線に興味を示しており、調査時に新幹線の塗り絵を持参していた。好きなものについて尋ねると、「N700系のぞみ」、「プラレール」といった文字を書いていた。また、職員の手ひらに指で文字を書き、そのことを通してコミュニケーションを図っている様子も見受けられた。

## 2) 職員調査

職員調査では、調査対象施設である肢体不自由児施設の職員1名に対して、対象者に関して「コミュニケーションの取り方」、「外出」、「日中活動」、「地域での暮らし」についての聞き取りを行った。以下にそれらの結果をまとめる。

### ① コミュニケーションの取り方

Aさん

「はい」、「いいえ」といった単語レベルでの意思表示を行うことができるので、そのような単語や、笑ったり嫌がったりといった表情を通じて意思確認を行っている。

Bさん

目の動きや視線、表情を通じて意思確認を行っている。また、好きなものに対しては「うー」と声をあげて意思表示をすることができる。

Cさん

筆談で意思確認を行っている。

### ② 外出

1年に1,2回みんなで外出する機会がある。また、4,5人くらいのグループで外出する計画を立てたりもする。それら以外にも気分転換や社会参加のために個々で外出することもある。外出をするとみな表情が違う。

### ③ 日中活動

18歳以上の入所者については日中通所施設に通えると良いのだが、送迎や自己負担の関係でなかなか難しい。そのため、そのような利用者は施設内で日中過ごすことが多い。そのような利用者について、職員の手がある時は散歩に行ったりもするが、することが無いとテレビに頼ってしまうのが現状となっている。

#### ④ 地域での暮らし

子どもの施設で18歳を過ぎるとできることが限られてしまったり、刺激が少なくなってしまうので、グループホームに行った方が楽しいと思う。ただ、障害の程度や医療的なケアのニーズに対応できることが必要になる。実際に地域で暮らすとなると、コミュニケーションを取るのが難しいので、最初はすごく大変だと思うが、お互い慣れて行くしかないと思う。その際には情報提供はたくさんしようと思うが、お互いの施設間の連携が必要になると思う。

### 9. 調査振り返り

障害当事者である調査員と調査の振り返りを行った結果を以下にまとめる。

#### (1) 知的障害分野・障害児分野

調査終了後に知的障害当事者である調査員2名とともに調査の振り返りを行った。振り返りはグループインタビューで行い、「調査に参加をしてどのような点が良かったか」、「調査に参加をしてどのような点に苦労したか」、「調査の際にどのような点を工夫したか」、「調査の際にどのような点に配慮したか」、「今後同様の調査を行う際に改善すべき点はあるか」について聞き取りを行った。なお、調査振り返りには概ね80分の時間を要した。

その結果、「調査に参加をして良かったところ」として、施設にはある程度自由があり、バリアがあるようには感じず、施設の中を自由に歩き回れたというような「自由の確認」に関すること、外部の人間が施設に訪問し、当事者が当事者に話を聞くというスタイルがとれたというような「当事者参加」に関すること、対象者が調査においてストレスを受けている様子が感じられず、堅苦しくなく、徐々に友達感覚で話を聞けるようになったというような「友達感覚」に関すること、がそれぞれあげられた。

また、「調査に参加をして苦労したところ」として、調査項目の表現が難しく、言い換えに苦労したというような「表現の難しさ」に関すること、インタビュー内容に矛盾があったというような「内容の矛盾」に関すること、がそれぞれあげられた。

また、「調査の際に工夫したところ」として、具体例をあげて具体的に短く質問をしたというような「具体的な質問」に関することがあげられた。

また、「調査の際に配慮したところ」として、障害の重い人や精神障害のある人に配慮をしたというような「障害特性への配慮」に関することがあげられた。

また、「今後改善すべき点」として、職員に対象者とのコミュニケーションのとり方を確認したり、聞き手が変わる場合その伝達を怠らないというような「情報の伝達」に関すること、調査項目の検討や対象施設との打ち合わせの際には当事者も参加して欲しいというような「当事者参加」に関すること、打ち合わせの際の言葉が難しく支援者をつけた方が良いという「支援者の必要性」に関すること、がそれぞれあげられた。

このように、本調査を振り返って見えてきたことは、本調査が障害当事者参加の下、わ

りと自由な環境の下で行われ、質問をする側もされる側も友だち感覚で調査に臨むことができたというところに特徴があると考えられる。しかしその中でも、対象者の障害特性への配慮が必要であったり、具体的に質問をする必要性が生じたり、質問内容に矛盾が生じたりと、対象者の障害に起因する配慮点も指摘された。また関連して、質問項目の表現の難しさが指摘されたが、この辺りのことは参加型調査として調査設計の段階から障害当事者の参加を受けて設問の検討を行うなどのことが必要であることが示唆された。また、調査員に対する支援者の必要性が指摘されるように、このような障害当事者参加型の調査の際には対象者に対する配慮のみならず調査員に対する配慮を行うことも必要であることが示唆された。

表 4 6 調査振り返り(知的障害分野・障害児分野)

|                 |  |
|-----------------|--|
| 調査に参加をして良かったところ | 施設には自由が無いと思っていたがある程度自由があるということがわかった<br>施設にはバリアがあると思っていたが全然バリアが無いことがわかった<br>調査中に施設内を自由に動けて良かった<br>施設で暮らしている仲間のことを外部の人間が聞きに来れたのは良かった<br>当事者が当事者に聞くという調査スタイルが良かった<br>調査を受けている人たちにストレスが感じられなくて良かった<br>堅苦しくなくて相手も緊張していなかったので自然な形で話ができ良かった<br>1回目の調査では気を使ったが2回目の調査では友達感覚で話を聞いた   |
| 調査に参加をして苦労したところ | 調査項目の表現が難しいので質問する方も聞かれる方も大変だった<br>調査項目の表現を言い替えるのが難しかった<br>相手によって調査項目の表現を変えるのに時間がかかった<br>インタビュー内容に矛盾がある対象者がいた   |
| 調査の際に工夫したところ    | 質問について具体例をあげたり具体的に質問をしたりした<br>具体的に短く聞いた方が質問の内容をわかってもらえた  |
| 調査の際に配慮したところ    | 障害の重い人に対しては一緒に行動をして好きなものを探した<br>精神障害との重複の場合かける言葉に気をつけた<br>最初に調査の全体的な流れを説明した  |
| 今後改善すべき点        | 先に職員に対象者とのコミュニケーションのとり方に関する調査をしておきたかった<br>1回目と2回目の調査の間に聞く人が変わる場合情報伝達の場合が必要<br>1回目と2回目の調査の間に聞く人変わる場合相手にも連絡をした方が良いと思う<br>調査項目の検討から当事者に参加してもらいたい<br>調査に際して施設側との話し合いの場が欲しかった<br>打ち合わせの際の内容(福祉用語)が難しかった<br>調査がはじめて人の中には記録者以外に支援者をつけた方が良いと思う<br>聞き手は同性が良いか異性が良いか対象者が選んでも良いと思う<br>支援者をつける場合調査の前に何度か顔合わせをする方が良い<br>1回目と2回目の調査の間が短かったのでもう少し間をあげたかった |



## (2) 身体障害分野

調査振り返りの結果を以下にまとめる。

表 4 7 調査振り返り(身体障害分野)

|                    |   |
|--------------------|---|
| 1. 調査に参加して良かった点    | <ul style="list-style-type: none"><li>・思ったより、スムーズに行えた</li><li>・なかなか難しい面もあったけど、質問項目が決まっていたので、楽だった</li></ul>  |
| 2. 調査に参加をして苦労した点   | <ul style="list-style-type: none"><li>・言葉の障害、コミュニケーションが難しい人は難しかった、こちらの表現が分かっているのか、普段、言葉の不自由な人と接する機会が少ないので</li></ul>   |
| 3. 調査の際に工夫した点      | <ul style="list-style-type: none"><li>・カード、具体例を出す</li><li>・日常的な会話の中でとは考えたが、コミュニケーションが難しい人はなかなか難しかった</li></ul>   |
| 4. 調査の際に配慮した点      | <ul style="list-style-type: none"><li>・3と同じ、なるべく質問、答えというより、流れの中で、世間話をするなかで、答えが出ればと配慮をした</li></ul>   |
| 5. 今後同様の調査を行う際の改善点 | <ul style="list-style-type: none"><li>・こっちの話を理解しているのか、こちらが理解できているのか、この2つがなかなか合わない、これをどのように改善するか</li><li>・地域生活については、なかなか想像がつかない様子であった、ただ、質問するのではなく、地域移行に関心を持ってもらうことが重要</li><li>・生活パターンを理解していないと、回答者の回答を理解することは難しい、普段の生活が分からないとイメージがつかない</li><li>・フェイスシートの改善、身体障害者版の物にする必要がある</li><li>・なんで、質問されているのか分からない人にとっては不安だったのではないかと、地域移行と言われても「なぜ?」と言う人もいる、気持ち半分半分の人も</li><li>・施設をなくすかどうかの圧力、政治的な部分が今後、どのようにかかるかで入所者の回答内容も変わってくるのではないかと</li><li>・言語障害の人を対象にしてやるというのは画期的ではある</li></ul> |

## 10. 考察

分野ごとの調査に関する考察について以下にまとめる。

### (1) 知的障害分野

本調査では、旧知的障害者入所更生施設の入所者 14 人を調査対象として施設での生活と地域での生活についてそれぞれその思いを語ってもらった。調査は同一の内容のものを 2 回行い、その間に地域で生活する知的障害当事者に地域生活に関する情報提供をもらった。その結果、1 回目と 2 回目の解答傾向にはそれ程大きな違いが見られなかった。

そのため、2 回の調査結果それぞれの解答傾向を見て行くと、対象者は施設での生活を概ね肯定的にとらえており、その背景として、楽しいことがある、好きなことができている、やりたいことがあるといったことがそれぞれあげられた。このように、本調査の対象者からは概ね施設での生活を楽しんでおり、それぞれ夢を持って生活を送っている様子が見られた。しかし、本調査は 2 施設での調査にとどまったため、全国的な傾向の検証については今後の全国調査における課題になると考えられる。

一方、施設での生活が否定的にとらえられる要因として、入所者同士の人間関係があげられた。施設での生活が否定的にとらえられる要因としては、施設における居住環境と人間関係によることが想定されるが、本調査からは人間関係の中でも入所者同士の人間関係がその要因としてあげられた。なお、本調査結果からは居住環境に対する否定的な意見は聞かれなかったが、これは調査対象施設が新しく、1 つの部屋を 1,2 名で使用しているためと考えられる。この点については、今後全国調査において、古い、あるいは 1 部屋を複数名で使用している施設の場合との調査結果の比較を行うなど、今後更なる検証を行うことが必要になると考えられる。

また、地域での生活については「したい」とされる傾向にある様子が見受けられた。しかしながら、地域生活の形態として 1 人暮らしや家族との暮らしはあげられたものの、グループホーム・ケアホームでの暮らしはあげられなかった。今回の調査対象施設では 2 施設ともグループホーム・ケアホームの体験利用が行われていたが、それにも関わらずこのような結果になったのは、地域生活として集団での生活よりも個人や家族との生活のように個別性や自由度の高い生活が志向されてのものだと考えられる。

本調査対象者が施設での生活を概ね肯定的にとらえていることからわかるように、望ましい生活の場は施設や地域などと一概に居住形態のみでとらえるのではなく、居住形態を含めた上でそれぞれの人が個々の生活ニーズに対応できる居住環境にあるか否かという視点でとらえることが重要になると考えられる。

いずれにせよ、本調査で施設での生活が肯定的にとらえられつつも地域での生活が望ましいとされたのは、より個別性や自由度の高い生活が志向されてのことだと考えられる。そしてその中で、本調査でもあげられたように、趣味や仕事などやりたいことをしつつ、自分らしく生活を送るということが求められているということが考えられる。

但し、これらのことについても、2施設での調査による回答傾向からうかがい知れることなので、今後全国調査により、この点について全国的な傾向を検証する必要があると考えられる。

また、本調査は障害当事者参加型の調査として行われたが、その中で対象者の障害特性への配慮とともに調査員の障害特性への配慮も行う必要性があることがうかがわれた。これらの点についても、今後障害当事者による参加型調査を行う際には留意すべき点になると考えられる。

## (2) 身体障害分野

本研究事業の調査についてはいくつかの特徴があげられる。まず、当事者講話を挟み2回の調査を行うことがあげられ、次に調査員は基本的に当事者であるということがあげられる。そこで、1、2回の調査結果の変化とその要因について考察したい。まず1回目と2回目の調査結果でどのような点が変わったのかを確認した後、その要因について述べる。

### 1) 1、2回目の調査結果の変化

2回の調査を行った結果、1回目と2回目でどのような点が変わったのであろうか。地域移行の態度に着目して、表42を作成した。表42のように、態度が不明であった者も2回目の調査では、コミュニケーション方法を工夫することにより、明確に態度を示すことができていた。また、Bさんについては、1回目には地域で暮らしたくないと話していたが、2回目には「全然したくないわけではない」と話していた。このように1回目、2回目で異なる内容を話していることも確認できた。また1回目の調査と2回目の調査を比較すると、調査対象者の発話の回数が増え、発言の内容もより具体的になったと言える。

表48 1、2回目の地域移行の態度の比較

|            |       |       |
|------------|-------|-------|
| 地域で暮らしたい   | A、E   | A、D、E |
| 消極的だが希望あり  | -     | B     |
| 地域で暮らしたくない | B、C、F | C、F、H |
| 不明         | D、G、H | G     |

### 2) 1、2回目の調査結果の変化の要因

#### ① コミュニケーション方法の工夫

変化の要因の1つ目としては、1回目の調査の際と2回目の調査の際でコミュニケーション方法を変更したことがあげられる。具体的には、Dさんに対し、「○×△?カード」を使用することにより、より明確に本人の意思を確認することができた。またHさんに対しては入所施設の職員のアドバイスを参考に、簡単な質問を繰り返すことにより本人の意思を確認することができた。

## ② 当事者調査員の参加

次に当事者調査員の参加があげられる。具体的には調査対象者から当事者調査員に対し、1人暮らしをどのようにしているのかという内容の質問が数回あった。またこの他に、面接調査ではない日に当事者調査員と会いたい、話したいという申し出があった。このように実際に入所施設ではない場で生活している当事者調査員は、同じ障害を持つ者として、調査対象者にとってより身近な存在であり、入所施設以外の生活をしている現実的な存在であったと言える。

## ③2回の調査の実施

以上の①、②については調査を2回実施することによりその効果が図られたと考えられる。調査対象者からの質問は2回目の調査の際が多く、コミュニケーションの工夫も1回目の反省点を2回目に生かした結果と言える。

今回の調査結果を踏まえると、調査は1回のみではなく2回、3回と丁寧に実施することにより、より本人の意思を聞きとることができると言え、より丁寧な調査デザインの必要性が示唆された。

この他に、本研究では当事者講話を行い、1人暮らしに対し情報提供を行ったことも、調査内容の変化の要因として考えられる。いくつかの要因が複合的に影響し合い、1回目と2回目で調査対象者が話した内容に変化がみられたと言える。

## (3) 障害児分野

本調査は肢体不自由児施設の入所者のうち、次の生活の場を模索する必要がある18歳以上の者を対象とした。その結果、対象となった者はみな障害の重さから言葉でコミュニケーションをとることが困難である様子がうかがわれた。そしてその中で、職員は様々な働きかけを行いながら対象者のニーズを把握している様子がうかがわれた。

しかし、対象者のニーズ把握以前に障害の重さから次の生活の場が見つからない状況にあることもわかった。特に外出や日中活動、地域での暮らしといった社会参加に関する部分については現状では施設の中で完結することが多く、外部の社会資源を用いるにも障害の重さや対象者の置かれている状況から種々の制約が生じる様子がうかがわれた。これらのことを踏まえた上で今後のことを考えると、外出などの社会参加支援や地域での暮らしといった部分が保障されることが必要であり、そのような環境を作り出すことが必要だということが本調査結果から示唆された。

参考文献

北海道（2009）『入所施設利用者意向調査実施報告書－あなたの気持ちを教えてください』

北海道.

長野県社会福祉事業団（2008）『日本財団 2007 年度助成事業長野県西駒郷の地域移行  
評価・検証に関する調査研究事業報告書』長野県社会福祉事業団.

長野県障害者地域生活支援研究会（2007）『平成 19 年度厚生労働省障害者自立支援調査  
研究プロジェクト知的障害者及び精神障害者の地域生活支援推進に関する研究報告書』

長野県障害者地域生活支援研究会.

全国社会福祉協議会全国身体障害者施設協議会調査研究委員会（2004）『平成 15 年度身体  
障害者療護施設実態調査報告書』全国社会福祉協議会.

平成22年度 厚生労働科学研究(障害者対策総合研究事業)  
障害者入所施設および精神科病院の入所  
者・入院者に対する全国実態調査にむけた  
パイロット研究

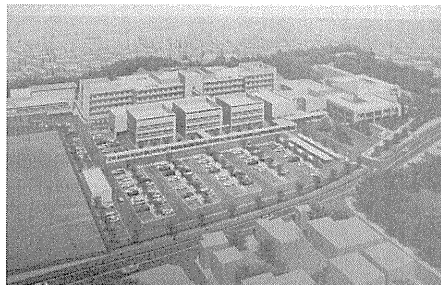
精神科病院調査班  
ダイジェスト版

## 精神科病院調査 経過

- 2011年6月 病院選定(研究協力者の尽力)
- // オンブズマン活動として病院訪問  
を行なっている団体に協力依頼
- 2011年7～9月 調査員の選定、依頼
- 2011年10月 調査員研修会実施
- // 院内ポスター掲示で周知
- 2011年11～12月 第1回調査実施
- 2012年1月 調査員振り返り会実施
- 2012年1月～3月 第2回調査実施

## A病院の沿革

- 県の精神科医療のセンター機能を担う病院
- 1926年 公立病院として開所(300床)
- 1968年 増改築工事竣工(800床)
- 1970年 自閉症児施設開所(42床)
- 1982年 臨床研修病院(医師法)に指定
- 1988年 応急入院指定病院(精神保健法)に
- 1991年 緊急救急病棟設置
- 1994年 大規模デイケアセンター設置
- 2006年 地方独立行政法人へ移行
- 2007年 医療観察法専用病床開設(5床)
- 2010年 稼働病床数470床



## A病院概要

所在地

病床数

平成25年3月リニューアル完成予定

463床(精神463床)

### 主な役割及び機能

精神医療のセンター機能

措置入院、緊急措置入院、  
応急入院などの行政的医療

他の医療機関では対応困難な  
患者の受入

児童思春期の精神障害など  
専門医療領域への対応

医療観察法に基づく精神障がい者  
の治療及び社会復帰支援

臨床研修指定病院(協力型)

### ■診療科目

緊急・救急科  
高度ケア科  
総合治療科  
児童・思春期科  
外来心療科  
研究・検査科

## A病院の概要 紫字は主な特徴

- 1病棟 1階 閉鎖(女性) 対応困難  
2階 閉鎖(男性) 触法、覚せい剤、観察法
- 2病棟 1階 閉鎖(男性) 慢性期長期入院患者  
2階 準開放(女性) 思春期発病長期入院者
- 3病棟 1階 準開放(男女) 高齢者  
2階 開放(男女) 社会復帰目的
- 4病棟 1階 開放(女性) //
- 2階 準開放(男性) 活動療法
- 5病棟 1階 閉鎖(男女) 救急  
2階 閉鎖(男女) 思春期10代患者

注)病棟の数字は実際のものではありません

## 調査員研修会 内容

1. 研究・調査の概要説明:三田優子(研究班)
2. 病院説明および調査にあたっての留意点:A  
病院副看護部長
3. 入院者の話を聴くということ:大阪精神医療  
人権センター Y氏
4. 調査員交流、意見交換
5. 事務連絡

【参加した調査員予定者 計19名(当事者10名含む)】

\* 他に後日、支援センターにて研修会を実施





## 患者さんの様子(病院からの資料)

- コミュニケーションの苦手な方が多い。
- 診断名が同じでも、症状はその人により異なる。
- 私たちと同様な社会的・心理的欲求がある。
  - ・自分の存在を認めてほしい。・受け入れてほしい。
  - ・安心を得たい。・よい人間関係を得たい。
  - ・社会復帰したい
- 思いや要求を素直に表現できないこともある。
- 言葉が聞き取りにくい方もいる。

## 調査時の注意点(病院から出されたもの)

- 初対面で挨拶してもすぐに返ってこない時もあるが、丁寧に対応する。
- 相手に関心を持って耳を傾け、よい聞き手になる。
- 話す場合、患者さんのペースを尊重する。
- 分かりやすい言葉で対応する。
- 説明なしにメモを取らない。
- 調査協力への感謝の言葉・態度を示す。

## 大阪精神医療人権センターY氏より

- これまでの精神医療オンブズマン活動を通して得られた知見をもとに「入院者の話を聴くこと」について講義
- 入院している立場で「厚生労働科学研究」「調査」などの言葉はきつい、不安を与える
- 言葉を聞き出すのではなく、語ろうと思える安心感を与えることが大事
- 言葉以外にも、聴き取ることは多い(表情、におい、音、温度、居心地など)、それらをきっかけに話すのも有効
- 初めて会った人に話せることと、話せないことがある(人によっては久しぶりの面会になる)
- 話が脱線したときは患者さんにとって戻すことは大事

## インタビューガイド

- 1 今の生活はいかがですか？
- 2 日中はどんなふうに過ごしていますか？
- 3 入院している他の患者さんとは、どうつきあっていますか？
- 4 職員とはうまくやっていますか？言葉遣いや態度はどうですか？
- 5 今、気がかりなことはありますか？また、嬉しかったことはありますか？
- 6 面会に来てくれる人はいますか？

## インタビューガイド(つづき)

- 7 今の生活で、自由だと感じるのはどんなときですか？不自由なのはどんなときですか？
- 8 今、何かやってみたいこと、希望することはありますか？また、将来の夢は何ですか？
- 9 退院についてどう考えますか？退院したらやってみたいことはありますか？
- 10 退院にあたって心配なこと、手助けしてほしいことはありますか？

## インタビューガイド使い方

- この順番で聞かなくてもいいです
- 1問1答というよりは、この質問をきっかけに、患者さんの思いを聴いてください。
- 「自由ではないですよ？」とか「退院したいでしょ？」など決めつけた質問ではなく、「どう思うか？」ということを探るものです。
- 1回の面接で全部聞けないかも知れません。
- 「話してよかった」「また聴いてほしい」と思える出会いになることが大事です。

入院されている皆さまへ ~調査ご協力をお願い~

このたび、大阪府立精神医療センターに入院されている患者さまに、日頃お感じになっていることや思っておられることを、外部の者がインタビュー調査させていただくことになりました。全国に入院している患者さま調査の一環です。インタビューにあたっては、無理のないよう、以下のとおりのお約束のも行ないたいと考えています。つきましては、多くの皆さまのご協力をお願いいたします。詳しくは、病棟のスタッフにお尋ねください。

精神科病棟入院者調査 調査員一岡（薬生学薬科学研究所）

1. この調査は、入院している皆さんがどんなことを考え、感じてらっしゃるのかをお尋ねするものです。
2. 途中で何かあったら、ご自由にお尋ねください。話したくないことは答えなくて結構です。
3. 患者さまのご希望のない限り、病院職員の立ち会いはありません。
4. お聞きした内容は、個人が特定されないようにします。話した内容を漏らすことはありません。
5. 協力していただいた方には、謝儀を差し上げます。

院内ポスター